

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和元年7月25日 VOL. 113

認知症の人に優しいお店・事業所の取り組みが心強い！！

令和元年7月4日（木）生涯学習センターを会場に『藤枝市認知症の人に優しいお店・事業所連絡会』を開催しました。平成25年度から認知症サポーター養成講座を受講したお店や事業所に対し、認知症の人に優しいお店・事業所（以下「優しいお店」）として認定し、現在までに68店誕生しています。今回の連絡会は、**優しいお店の取り組みを共有し、それぞれの職域や立場で、認知症サポーターとしての活動に繋げ、地域での認知症の人と家族を支えるネットワークづくり**を推進する目的で開催し、キャラバン・メイトや優しいお店から33名が出席しました。

優しいお店の取り組み報告

【静岡信用金庫 藤枝支店】

何度も通帳を失くしてしまうお客様もあり、その都度丁寧に説明し対応をしている。お客様1人での対応が難しいと感じた場合には、お客様との会話の中で家族がいるか等を確認して対応しており、まずは相手の立場に立って、話を丁寧に聴くことを心がけている。

安心すこやかセンター（以下「あんすこ」）と連携することにより、出来ることも増えると感じている。

【島田掛川信用金庫 藤枝南支店】

判断能力はあるが、身体的理由で伝票が書けない方に対し、代筆や代読の制度もあり、臨機応変な対応を心がけている。困っている方がいれば相談をしてほしい。対応力を高めないといけないと感じている。

【藪崎新聞店】

5年前に認知症サポーター養成講座を受講し、新聞販売店として認知症の人にできることは何か考え、“あれ？おかしいな？”と感じたら、声をかける、歩行者信号を押さずに待っている人を見かけた場合は手を差し伸べる、外灯が切れていたら替えるのを手伝う等、出来ることを行っている。認知症の人を介護する家族のことを理解できるようになったことも大きな変化だと感じている。

【はごろも薬局】

季節にそぐわない服を着て、爪も伸びきっていたため、おかしいと感じてあんすこに情報提供し、支援に繋がったケースがあった。爪の状態は生活環境を表していると感じており、普段から爪の状態を見るようにしている。その他にも身なりや発言、表情などを確認し、色々な面からサポートが必要と感じたときはあんすこ情報提供をするようにしている。

優しいお店・キャラバンメイトの交流

認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバン・メイトと優しいお店と合同でグループワークを行い、認知症の人と家族を支えるためにそれぞれの立場や職域での取り組みんでいることを報告・共有しました。

参加者の感想

- ・様々な職種でそれぞれのできる範囲でサポートしている状況がわかってとても良かった。
- ・他の企業の方の取り組みを聞いて刺激になった。
- ・認知症の人に寄り添う対応をしていきたい。
- ・店舗内で情報共有を行い、必要に応じてあんすこと連携する。

今後に向けて

令和元年6月18日に決定した認知症施策推進大綱では、重点施策の一つとして認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを企業で400万人養成するという新たな目標を掲げました。本市においても優しいお店は認知症の人と家族を支える貴重な地域の資源であり、キャラバン・メイト、あんすこ・優しいお店等と取り組みを共有し、お互いの強みを生かし、それぞれのつながりを作る中で、地域で認知症の人と家族を支える有機的なネットワークの構築を目指していきます。市では今後も積極的に地域の取り組みを発信していきます。

